

まな Ban Ban

研究通信 No. 6

令和6年7月2日(火)

文責：荒巖



6月26日(水)の小田先生の外国語「My Weekend」の研究授業レポートです。

導入の「Let's sing」ではダンスしながら皆が本当に楽しそうに歌っていましたね。また、先生が子ども達のつぶやきを拾われることで無理なく自然な流れで次の段階へ移っていききました。また、私は「子どもの笑顔」をねらいながらカメラを撮っていたのですが、後半はリアクションが増え、より楽しそうに会話していたことが印象的でした。

研究会では、先生方から多くの意見が出されました。(一部紹介します)

- ・オールイングリッシュでなく日本語で言う場面もほどよくあり安心して子どもが発言や活動をしていた。
- ・本時で出てきた表現を自信をもって使えるように、1人学び(1人で練習する)時間や表現が板書してあったらもっと自信をもって言えたかもしれない。星野先生からのアドバイスは外国語活動でもぜひやってみたいと思いました!
- ・英語を話さないといけない状況にする。コーディネーター先生に話そう、というような設定がよい。
- ・実際の週末の様子だけではなく「もしも～」の設定をして架空の週末でもおもしろい。
- ・話すための「コミュニケーションカード」を使うと会話するときのヒントになる。

小田先生にはもはや苦手な分野はないのではないかと思います。教室環境の整え方も早速真似したところです。とても忙しい中で学びの多い授業を提供してくださった小田先生にこれからも学んでいきましょう。

～人吉球磨算数研 授業参観レポート～

錦中学校1年生数学「文字の式」で堤先生の授業を参観してきました。数学を知り尽くして今でも探求されている堤先生にたくさんの中学校の先生が参観されていました。「向上心」を研究テーマとして、一つの答えて満足せず、生徒のいろいろなパターンの解き方を示して「考える」ことを常に求めていらっしゃるそうです。

先生の授業から学んだことです。

- ・ふり返りの内容 3つの「こ」 ・「こ」れまで・「こ」の授業で・「こ」れから
- ・前時のふり返りを必ず次時の初めに発表・確認
- ・考えがいくつもでてくる課題設定を提示できるように考えている。生徒の思考の流れを意識して授業を組み立てている。
- ・全部を1人の生徒に言わず、他の生徒に言わせる。また、説明が苦手な児童の考えは他の生徒が代わりに発表。

中学校の授業は、「形式的な流れ」と思い込んできた自分が恥ずかしくなりました。本校の研究にも繋がる学びの多い授業になりました。